

速報！半壊した古墳の調査

べっしょこふん たかやちようごう
別所古墳（高屋町郷）

↓白鳥山（白鳥古墳）



写真9 別所古墳（手前）から白鳥山を望む（北から）

別所古墳は4世紀代に造られた市内最古の古墳のひとつである白鳥古墳の北東側約1kmの丘陵上に位置します。令和6年12月から令和7年1月に開発計画地整備の一環で発掘調査を行いました。調査前にはすでに西側半分がくずれた状態でしたが、もとは直径約15mの円墳であったと考えられます。埋葬施設も壊れていましたが、金属製品や人骨が出土しました。古墳が造られた時期は5世紀以降と考えられますが、今後さらなる検討が必要です。



写真10 埋葬施設の石組状況（東から）



写真11 埋葬施設の内部（南から）



図5 別所古墳位置図（1:4,000）

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡 Vol.16

発行日 2025（令和7）年3月31日
発行 東広島市出土文化財管理センター
〒739-2201 東広島市河内町中河内 651 番地 7
TEL:082-420-7890 FAX:082-437-0320

編集 東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印刷 有限会社アラ・アド

※センター報内の地図はすべて国土交通省国土地理院発行の
「電子地形図25000（オンライン）安芸西条」
「電子地形図25000（オンライン）白市」を加筆、拡大して使用しています。

東ひろしまの遺跡

Vol.16

人々が永く暮らす場所

ともまつさんごういせき さいじょうちょうじけ
友松3号遺跡（西条町寺家）



写真1 友松3号遺跡 遠景（西から）

友松3号遺跡は龍王山の南西に伸びる低い丘陵の先端で、西側には黒瀬川が南東方向に流れている場所に立地しています。現在1～5号まで確認されている友松遺跡群の中の1つです。

友松3号遺跡は過去に何度か調査されておりその結果、弥生時代前期から続く、環濠集落であることが分かりました。

今回は共同住宅新築工事で民間の調査機関により発掘調査を行いました。調査の結果、弥生時代おわり頃～古墳時代はじめの竪穴住居跡や掘建柱建物跡、中世の土坑、近世の農村集落に伴う井戸、鍛冶関連遺構などいろいろな性格を持つ遺構が発見されました。



図1 友松遺跡群位置図（1:3,000）



写真2 竪穴住居跡の検出状況（西から）



写真3 鍛冶関連遺構（南から）

調査区の西側で発見された竪穴住居跡からは、弥生時代終末期の壺形・甕形土器が出土しました。この住居には排水施設が設けられていて、住居壁溝内に溜まる湿気や水分を外へ出す機能があったと考えられます。(写真2)

また、調査区の東側からは近世(18世紀)の鍛冶炉と考えられる遺構(写真3)が見つかりました。令和元年度の調査区では、13世紀後半頃の鍛冶関連と考えられる遺構が発見されています。この場所には中世～近世に継続的に鍛冶にかかわる人がいた可能性があります。



写真4 調査区空中写真（調査区の一部、上が北）

弥生時代における友松遺跡群と横田1号遺跡の関係について

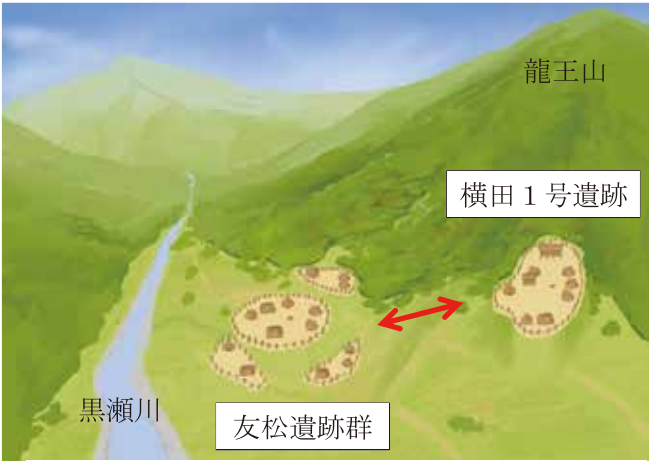


図2 弥生時代の友松遺跡群周辺のイメージ図

弥生時代には、友松遺跡群より北東の小高い場所に、横田1号遺跡が存在します。

横田1号遺跡は、希少な青銅器の出土、溝に区画された独立棟持柱を持つ掘立柱建物跡(祭祀的な建物)の発見があり、おそらくこの辺りの拠点的な集落であったと考えられます。友松遺跡群はこの横田1号遺跡との連携をもって周辺に存在していた集落の1つではないかとみられます。

黒瀬川の氾濫に伴い、低い場所(友松)から防災に優れた高い場所(横田)へ逃げていたのかもしれない。

中世の掘立柱建物跡を発見！

西中郷遺跡(西条町田口)

西中郷遺跡は、広島大学の南側を流れる角脇川沿いに位置する弥生時代～古墳時代、中世～近世の遺跡です。平成20年度の発掘調査では中世の溝や土坑、備前焼等がみつかり、今回の調査では中世の遺構に加えて近世の遺構と遺物が発見されました。

調査区域の南側では中世の掘立柱建物跡が1棟と、近世の農作業に使用されたと考えられる土坑が3基発見されました。

遺物は、磁器皿、陶器碗、土師質土器・鍋・播鉢等の土器類や金属製品の簪(かんざし)などが出土しています。

調査区中央で検出した溝は近世の溝で、上記の土坑と合わせて、農作業の関連施設と考えられます。



写真5 遺跡真上から(上が北)

図3 遺構配置図(拡大)



図4 西中郷遺跡位置図(1:4,000)



写真6 簪(かんざし)



写真7 磁器皿



写真8 陶器碗